

き いん どう
徽音堂物語 5

アインシュタイン博士、来校の記録

今回は、徽音堂には直接関係はありませんが、お茶の水に校舎があったころの講堂のお話です。かのアインシュタイン博士が来校したことをご紹介します。

◆
アインシュタイン博士 (Albert Einstein) は、1922年10月8日、妻のエルザとともにマルセーユで日本郵船の北野丸に乗船し、その船上で、1921年度のノーベル物理学賞が授与されたという朗報に接しました。そして、11月17日に神戸に上陸し、日本中が、相対性理論という学説を樹立した世紀の天才物理学者アインシュタイン博士に熱狂しました。

◆
2005年は、「相対性理論」を発表後100年、さらに没後50年ということで、「世界物理年」に指定され、世界各地で記念行事が行われました。お茶の水女子大学では、創立百三十周年記念行事の一環として科学月間が設けられ、2005年11月26日に理学部主催の世界物理年「物理の世界を楽しもう」が開催され、同時に、アインシュタイン博士にまつわる展示がありました。それらを企画した、お茶の水女子大学理学部長 真島秀行先生に寄稿をお願いしました。



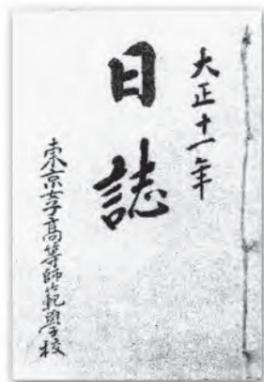
アインシュタイン博士の写真にまつわる話

お茶の水女子大学理学部長 真島秀行

大正11年(1922年)11月から12月にかけてアインシュタイン博士が来日し、日本各地で講演を行いました。お茶の水女子大学の前身東京女子高等師範学校講堂でも、11月29日夕刻、帝国教育会ほか11教育団体の主催による歓迎会が開催され、約千人の参加者があり頗る盛会であった、という記録(日誌)があります(資料1)。資料2は、原文を活字化したものです。

2005年の世界物理年には、お茶の水女子大学創立百三十周年記念行事の一つとして講演会「物理の世界を楽しもう」と同時開催でアインシュタイン博士にまつわる展示を行いました。その際、女子学生に囲まれたアインシュタイン博士の写真は戦火で残念ながら失われていたので、桜蔭会会報8月号で、「皆様のお手許に何かありましたら是非ともお知らせ下さい。」とアインシュタイン博士の写真をご提供くださるよう呼びかけを依頼しました。

◆資料1：日誌の表紙



◆資料2は、原文を活字化したものです。大正11年11月13日 月曜

◆資料3 アインシュタイン博士の写真

写真をご寄附いただき、現在は大学資料室に保管されています(資料3)。この写真を撮影したのは、古谷健太郎氏という福井県小浜市出身の物理学者です。大正12年に東京大学物理学科を卒業し、後に第四高等学校教授、金沢大学教授、金沢大学附属高等学校校長を歴任しました。旧制中学校では、北村友圭氏に学び、夏冬休みに帰省の折には必ず恩師である北村友圭氏を訪ねたそうです。写真は、アインシュタイン博士が来日された際に、学生だった古谷氏が撮影し、恩師へ送ったもので、北村友圭氏長女である石井松子氏(昭和4年東京女子高等師範学校理科卒業)が保存されていたものを、ご提供くださいました。

北村友圭氏は東北帝国大学数学科卒業後、小浜など各地の旧制中学校教諭を務められた後、桐生高工教授、昭和10年定年後も講師として教鞭をとり、桐生高工は群馬大学工学部の母体となった学校で、大学となった後も講師として教鞭をとりました。東北帝国大学では、日本で女性の入学が認められて初めての女学生となった黒田チカ先生(明治42年女子高等師範学校研究科修了)や金山(旧姓牧田)らく先生(明治44年女子高等師範学校卒業)と北村友圭氏が同期生でした。そして、金山らく先生は石井松子氏の恩師に当たるというのはなんとという奇遇でしょうか!

◆資料2

東京女子高等師範学校 『大正十一年 日誌』の抜粋
(原文を忠実に活字化したもの)

大正11年11月13日 月曜

(前略)

本日午後二時十分より左の講演アリ

アインシュタイン氏相対性原理

東北帝国大学教授理学博士愛知敬一君

(後略)

大正11年11月29日 水曜

開校記念日二付左通式行フ

(式次第略)

本日午後六時より帝国教育会外市内十一教育団体ノ主催

ニヨリアインシュタイン博士ノ歓迎会ヲ講堂ニ於テ催サル

会衆約一千人盛式ナリシ

◆資料3 アインシュタイン博士の写真



◆参考資料

「お茶の水女子大学百年史」による上記日誌に基づくとおもわれる記述

「大正十一年十一月には、アインシュタイン博士 (Albert Einstein) の来日が伝えられるとともに、わが国の学界・教育界のみならず、一般社会にまで相対性原理ブームが起こった。本校でも東北帝国大学教授理学博士愛知敬一氏を招いて、『アインシュタイン氏相対性原理』と題する講演を十三日午後二時十分から職員・生徒一同聴講した。二十九日は、本校開校四十周年記念式ののち、午後六時から帝国教育会ほか十一教育団体の主催で、アインシュタイン博士の歓迎会が本校講堂で催され、会衆約千人、頗る盛会であったという」

(さらに次の文が)

「大正十二年に本校の理科や家事科を卒業した人びとは、五十余年前を回顧して、アインシュタイン博士の話聞き、その後同博士と握手したことが、学生時代の最大の思い出であると、感激を込めて述べている。」(『お茶の水出の五十年—高学歴女性の生活史と老後生活』[高年齢を生きる七号]昭和五十年、三十九、四十九、五十二頁)。

『お茶の水出の五十年—高学歴女性の生活史と老後生活』[高年齢を生きる 七号]昭和五十年、三十九、四十九、五十二頁(湯沢雅彦編)の実際の記述は以下の通りで、女高師出の三人の方がアインシュタイン博士について言及していました。

E.O.さん(大正12年度家事科卒、鹿児島県立女子師範教師、結婚後退職)

学生時代の最大の思い出は、相対性理論のアインシュタイン先生が学校にいらっしゃり、講演後にわたしたちと握手してくださったことです。大きな暖かい手でした。とても感激してしまいました。

W.O.さん(大正12年度理科卒、宇都宮高女教師、英和女学院教師・校長)

講演に来校されたアインシュタイン博士の大きな手に一人一人ぶらさがったりした感激も忘れられません。

H.T.さん(大正12年度家事科卒、佐倉高女教師、県立高校教師、福岡女子短大常勤教員、70歳後非常勤講師)

女高師時代の一番の思い出は、アインシュタインが来校され、「相対性理論」の講演を聞いた時のことです。帰られるアインシュタインの車のそばまで駆け寄り、握手を求めたのです。握手をしてもらえてほんとに嬉しかったですよ。

【歓声に包まれ、多くの方に握手を求められたアインシュタイン博士の様子が目に浮かびますね!】

「女性とアルコール」 ～楽しく飲んでよい関係」事業報告

未成年者飲酒予防基金助成事業



未成年者飲酒予防基金の助成事業『女性とアルコール』について、ご報告します。「未成年者飲酒予防基金」は、アサヒビール株式会社がアルコール飲料を製造・販売する企業グループとして、適正飲酒を啓発するという企業の社会的責任(CSR)の観点から2005年3月に設立し、主として未成年者の飲酒予防のための社会活動または研究・活動を主宰・実施している団体、個人、施設などを対象に助成するものです。当会は2005年度の助成団体に選ばれ、1. アンケート調査、2. セミナーの実施、3. ガイドブックの作成と大きく分けて3つの活動を行いました。



1. アンケート調査

アンケート調査は、女性および未成年者の飲酒への意識などを把握し、正しい飲酒についての認識を得るために何が重要かという基礎資料を作ることを目的に行いました。アンケートについては、ガイドブック「女性とアルコール」に概要を掲載しています。

【アンケート概要】

調査対象 小、中、高校生約720名
 調査の時期 2005年10月
 調査方法 教室における一斉調査。無記名。
 記入後の調査票は、封筒に入れて密封し、回収され、当会まで密封のまま提出された。

2. セミナーの実施

アンケート調査をもとに問題点を洗い出し、2005年11月13日、お茶の水女子大学学園祭において公開講座の1つとしてセミナーを開催しました。学園祭で行うメリットは、20歳前後の飲酒を始めるころの、飲酒に興味のある学生に対してメッセージを広く発信できることにありました。また、高校生の来場者も多くあり、120名ほどの参加者(パッチテスト*のみの参加者も含む)で、会場の教室はびっしりと席が埋まり、立ち見も出るほどの盛況ぶりでした。男性の参加者も多く、男女の比率はほぼ半々でした。セミナーは、村田容常先生(お茶の水女子大学生活科学部食物栄養学科)【写真1】による「楽しく飲みニケーション お酒と酔いの話」から始まり、全員が○×で答えるクイズ【写真2】、森義仁先生(お茶の水女子大学理学部化学科)による実験「お酒は燃えるか」【写真3】と続きました。



【写真1】 「アルコール博士」に扮装した村田容常先生が登場



【写真2】 アルコールに関する○×クイズで盛り上がる



【写真3】 森義仁先生による実験「お酒は燃えるか」

クイズでは、特にFASと、アルハラについての認識を深めてもらいたいと考え、時間をかけて説明しました。最後に行ったパッチテストも好評で、ひとりひとりに対して、判定を行ったので、自分の体質がよくわかりとてもよかったとの意見が多く聞かれました。

*パッチテスト…エタノール溶液をつけたガーゼを肌に貼り、肌の反応でアルコールに強い弱いといった体質を判定する簡易なテスト方法。



3. ガイドブックの作成

以上の活動をもとにガイドブックを作成しました。

ガイドブック『女性とアルコール』 目次

1. アンケート調査実施
2. セミナー実施報告
3. 酔いのメカニズム(村田容常先生)
4. パッチテストをしてみよう
5. 適正飲酒とは
6. アルハラ=アルコールハラメントについて
7. 妊娠中の飲酒による胎児の発達障害(坂田ひろみ先生)
8. 未成年の飲酒-学校教育での取り組み-(山梨八重子先生)
9. メッセージ(森義仁先生)

これらの活動が、未成年者の飲酒防止や女性特有のアルコール問題についての認識を深めるための一助になることを願っています。

最後になりましたが、助成をいただいたアサヒビール株式会社に深くお礼を申し上げるとともに、協力いただいた多くの方々へ心より感謝いたします。

『女性とアルコール』配布先募集!

当会が作成したガイドブックを活用してくださる団体などありましたら、ご連絡をお願いいたします。

連絡先:お茶の水学術事業会 TEL:03-5976-1478 E-mail:info@npo-ochanomizu.org



▲ガイドブック表紙
 「女性とアルコール～楽しく飲んでよい関係」
 (A5判/28ページ)



▲本文16～17ページ 「妊娠中の飲酒による胎児の発達障害」

お茶の水女子大学 イベント情報

2006年6月以降にお茶の水女子大学で開催される各種イベントのお知らせです。詳細は各主催者にお問合せください。

◆お茶の水女子大学21世紀COEプログラム 公開講座

「誕生から死までの人間発達科学 ―移行の危機を乗り越える―」

本学では、文部科学省より研究補助を受けて遂行して参りました21世紀COEプログラム「誕生から死までの人間発達科学」が今年度で最終年（5年目）を迎えます。本講座は、これまでの研究成果を広く一般に還元する場として企画いたしました。最終回（第4回）は「生と死」をテーマに、まさに生命のドラマで直面する潜在的危機を、みなさまと一緒に考えていきたいと思います。

【会場】お茶の水女子大学 共通講義棟 2号館 1階101室 【お問合せ】お茶の水女子大学21世紀COEプログラム「公開講座」実行委員会 Fax 03-5978-5830 E-mail: lec-coe@cc.ocha.ac.jp 【受講料・テキスト】無料 【申込み方法】FAXまたはE-mailにて、①氏名 ②年齢 ③連絡先をお知らせください。

期 日	講座内容
①② 2006年6月10日（土） 13:00～16:00 ③④ 2006年7月1日（土） 13:00～16:00	第4回「生」と「死」 ① 出産と遺伝カウンセリング 講師：千代豪昭（お茶の水女子大学 教授） ② 子どもの発達に影響する遺伝と環境 講師：菅原ますみ（お茶の水女子大学 助教授） ③ 子どもの命と安全を守るには 講師：袖井孝子（お茶の水女子大学 名誉教授） ④ 発達する死者たち 講師：波平恵美子（お茶の水女子大学 名誉教授）

◆幼児教育未来研究会

【主催】お茶の水女子大学 子ども発達教育研究センター・同附属幼稚園・東京学芸大学総合教育科学系教育学講座幼児教育分野・同教員養成カリキュラム開発研究センター・同附属幼稚園【後援】文京区教育委員会【詳細・申込み】子どもセンターのホームページへ<http://www.kodomo.ocha.ac.jp>

期 日	イベント・講座名	参加費	備 考
2006年6月10日（土） 10:00～12:00	幼児教育未来研究会6月例会 テーマ：アメリカの幼児教育―ミルズ大学チルドレンズスクールでの経験を通して 講師：岩立京子（東京学芸大学）	資料代をいただく場合があります。	【会場】東京学芸大学附属竹早小学校
2006年8月19日（土） 10:00～16:00	幼児教育未来研究会 夏のスペシャル研修 テーマ：保育内容を深める（仮） 第1部 保育内容に関するシンポジウム 昼休憩 附属幼稚園の教材研究の展示と発表 第2部 保育内容ごとに分科会および全体協議会	資料代をいただく場合があります。	【会場】東京学芸大学芸術館ホール（小金井）

◆子どもと学びワークショップ

【主催】お茶の水女子大学子ども発達教育研究センター【共催】北区教育委員会【詳細・申込み】子どもセンターのホームページへ<http://www.kodomo.ocha.ac.jp>

期 日	イベント・講座名	参加費	備 考
2006年6月24日（土） 14:00～17:00	子どもと学びワークショップ 〈奈良女子大学連携フォーラム〉 主題：子どもたちの公共性を育む学校作り 講師：宮本みち子（放送大学）ほか	資料代をいただく場合があります。	【会場】お茶の水女子大学 本館306室

◆シンポジウム「遺伝カウンセラーの養成と新たな女性専門職の創出（仮題）」

【主催】お茶の水女子大学大学院人間文化研究科ライフサイエンス専攻特設遺伝カウンセリングコース【申込み】E-mail: life-kt@cc.ocha.ac.jp Fax 03-5978-5362 滝澤

期 日	イベント・講座名	参加費	備 考
2006年7月14日（金） 18:30～20:35	講師：井村裕夫氏（先端医療振興財団理事長） 名取はにわ氏（内閣府男女共同参画局長） ほか	無料	【会場】お茶の水女子大学 理学部3号館7F大講義室

◆LWWC

【お問合せ・お申込み】お茶の水女子大学 ライフワールド・ウオッチセンター 化学・生物総合管理の再教育講座事務局 E-mail: koukai-q@cc.ocha.ac.jp Tel 03-5978-5096, 5494 Fax 03-5978-5019 詳細はホームページをご覧ください。 <http://www.ocha.ac.jp/koukai/saikyouiku/index.html> 【会場】お茶の水女子大学

期 日	イベント・講座名	参加費	備 考
2006年9月～2007年2月	LWWC「化学・生物総合管理の再教育講座」後期 本再教育講座では、現代社会をよりよく理解する教養を涵養することを目指し、化学物質や生物によるリスクの評価・管理、そして技術革新およびその社会・生活とのかかわりなどについて、研鑽をつむ機会を提供しています。前期に続いての開講で、前期は700名余の方が受講され好評を博しています。	無料	【スケジュール】 平日 18:30～20:00 もしくは 土曜10:00～11:30、11:50～13:20 もしくは 土曜14:00～15:30、15:50～17:20 開催曜日は科目によって異なり、週1回（90分）の講義。 全30科目（予定）から選択可能、1科目は15回の講義で構成。

講師斡旋について

ご希望に合わせて講演会やセミナーに最適な講師を斡旋します。自治体主催の市民講座や講演会など、講師のご要望がありましたら、お気軽にお問合せください。



◆地方講演会共催のパートナーを募集◆

東京都以外の地域での講演会を共催していただける団体等がございましたら、ぜひ、ご連絡ください。

お茶の水ブックレット

お茶大で催されるさまざまな講演やシンポジウムの内容を学外のみならずにお届けするために、お茶の水ブックレットを出版しています。大学が発信する新鮮で貴重な情報をお仕事や日常にどうぞお役立てください。



1冊500円（税込・送料別）でお求めいただけます。メール・電話・FAXでご注文ください。最新刊については随時ホームページでお知らせしております。
TEL&FAX 03-5976-1478 info@npo-ochanomizu.org
<http://www.npo-ochanomizu.org/booklet/>

女子高校生夏の学校 ～科学・技術者のたまごたちへ～

【主催】文部科学省、独立行政法人国立女性教育会館、男女共同参画学協会連絡会
【期日】平成18年8月17日（木）～19日（土）
【場所】独立行政法人国立女性教育会館（埼玉県）
【対象】全国の女子高校生、付添い教員（定員100名（先着順））
【備考】参加費無料／宿泊費（1泊1,000円）、食費・交流会費等は個人負担。なお、女子高校生の交通費は国立女性教育会館が会館規程により一部負担します。
【問合せ先】国立女性教育会館 事業課
TEL 0493-62-6711（内線2118、2106） FAX 0493-62-6720

- 第1号「教育と平和―アフガニスタン女子教育支援シンポジウムから」緒方貞子氏へのお茶の水女子大学名誉博士称号授与式での記念講演・五女子大学学長によるアフガニスタン女子教育支援パネルディスカッション。
- 第2号「国立大学改革とお茶の水女子大学のゆくえ」本田和子前学長の講演（表題）、土屋賢二教授の講演「お茶の水女子大学はどんな人間を生み出してきたか・・・被害者の立場から」を収録。
- 第3号「ライフワールド・ウオッチセンター」（在庫なし）センター設立記念シンポジウムでの記念講演を収録。名古屋市大名誉教授伊東信行氏、文科省 井上正幸氏、日本学術会議会長 黒川清氏 他
- 第4号「生命科学フォーラム」お茶大理学部研究者による生命科学最先端の講演集。「ストレス応答の生物学」「ゲノム解析・・・遺伝子診断と治療の扉」「糖鎖を操作して健康を守る」「インビボ核磁気共鳴・・・診断と治療への寄与」他
- 第5号「現代女性の恋愛・結婚・就労パズル」「読売・お茶大 女性アカデミア21」での講演とシンポジウムを収録。心理学者で評論家の小倉千加子氏の講演（表題）とパネルディスカッション。
- 第6号「『女性と科学』を科学する」「読売・お茶大 女性アカデミア21」より、宇宙飛行士 毛利衛氏と評論家 樋口恵子氏との対談、（株）リコー常務執行役員 國井秀子氏、サイエンスライター 青山聖子氏、お茶大理学部教授らによるパネルディスカッションを収録。

cha cha cha 茶・茶・茶 お茶大再発見!

科学史散歩 5 ～日本で女性初の帝国大学生 黒田チカ

帝国大学が女性に門戸を開いたのは、1913（大正2）年東北帝国大学でした。3人の女子学生が入学し、このことは、当時、世間の注目を集めたようです。今回は、そのうちのひとりである黒田チカをご紹介します。

黒田チカは、1884（明治17）年に、佐賀県佐賀郡松原町で生まれました。進歩的な考えの家族の支援を受けて、1902（明治35）年に、女子高等師範学校（お茶の水女子大学の前身）に入学し、化学を専門とし研究に研鑽を努めました。そして、研究課程を修了後に助教となり、講義実験の準備や生徒指導を行いました。1912年に赴任してきた長井長義氏に大変な影響を受け、東北帝国大学入学を勧められ、女子初の帝国大学生となりました。東北帝国大学では、生涯の師となる真島利

行氏と出会い、卒業テーマを決める際に「漆のような天然物の化学構造の研究をしたい。特に天然色素のようにきれいなものをやりたい。」といい、むらさきの紫根の色素（シコニン）の研究をはじめました。その後、母校に教授として戻った後、英国オックスフォード大学へ留学もしました。2年間の英国生活はホームシックになる暇もないくらい充実した日々を過ごしたようです。日本に戻ってからは、理化学研究所に移っていた真島氏の援助を受け、母校での講義を終えると、都電で理化学研究所へ移動し、真島研究室で研究をしたそうです。理学博士となり、数々の学術賞を受賞し、科学者として自然科学を志す女性たちの大きな目標となりました。理化学研究所は移転し現在は、文京グリーンコート（本駒込2-28）となっています。



▲黒田チカ



▲文京グリーンコート内に建てられている、理化学研究所跡の案内板